

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	G.Y	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティーユニバーシティ		
コース名	General English		
期 間	2025 年 6 月 16 日～ 2025 年 7 月 11 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

私は、ダブリンシティーユニバーシティにおいて一ヶ月間、英語の語学研修に参加し、英語力の向上に取り組んだ。授業は平日の朝9時から午後1時まで行われ、途中、20分の休憩を挟んだ。クラスのメンバーは、他校の日本人、ブラジル人、韓国人の学生が含まれ、約10人の少人数クラスであった。金曜日は週テストが行われた。リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングの4技能それぞれに特化した内容が毎回組み込まれていた。授業のはじめにスピーキングに特化して、週末やアフターランチに何をしたかを、アイスブレイクとしてペアを組んで会話をして、その後、リーディングに関連する質問が何問か与えられ、それについても話し合った。そして、その会話の中で出た間違った表現や、新たなボキャブラリーを教わった。次に文法を学んだ。今回は時制、現在完了形、関係代名詞、冠詞を学んだ。教科書や他の問題を使い、また話し合いをしながら使い方について学んだ。最後に、リーディングを行った。最初に1分間で内容をざっくり頭の中に入れ、要点をまとめ、次に内容を要約するという形で毎回取り組んだ。また、週に1回程度、プレゼンテーションを行った。1分間で身の回りの大切なものを1分間でスピーチし、別の回では世界の伝統料理について簡単にプレゼンテーションを行った。課題は主に、授業で学んだ文法の反復練習問題、リーディングで扱った内容と似た内容のリーディング問題が出た。また週一回、180単語から200単語程度のライティングも課された。印象に残った授業は、探偵になりきって何人かの容疑者の特徴を暴くというミステリー系のリーディング、あなたならどのようなチャリティーを行うかについてプレゼンテーションを行ったことだ。4技能を総合的に扱い、様々なテーマを用いた授業であり、興味を持ちながら学習することができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

今回、一ヶ月の授業を受けて、語学力とともに、異文化に対する理解やコミュニケーションのとり方についても学べる良い機会となった。授業では、新しい単語やイディオムなどのボキャブラリーの知識、リーディングの内容を理解するための方法、時制や冠詞などの基本的な文法の確認など、英語のテストなどで生かせる方法を学んだ。また、プレゼンテーションなどの実践的な英語を話した際、どのような話し方、フレーズを使えば相手にわかりやすく伝わるかなどの知識も得られた。アイスブレイクで簡単な日常会話を話した際、最初はなかなか頭の中で文を組み立てることができなかったが、徐々に、使えるフレーズだけで相手に伝えることができるようになった。授業や、様々な国の人と会話することができるソーシャルアクティビティに参加して、挨拶やマナーなどの違いを聞くことができ、異文化を受け入れる大切さを実感できた。毎日英語を話す環境に置かれたことで、英語でコミュニケーションをとるためには、4 技能すべてが密接に関わっており、どれも欠けてはいけないということを実感したと同時に、日頃の会話の積み重ねが重要であることを学んだ。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

私は、一ヶ月の授業を受けて、受ける前と比べて、授業に対する積極性が増し、コミュニケーション能力が増したのではないと思う。私は、授業中に間違いを恐れ、また人の意見に合わせて発言を恐れてしまう傾向にあったが、この機会に発言をして、少しでも英語を話す機会を増やそうと試みた結果、もうこれ以上答えなくていいと先生に言われるほど、気がつくと言言していた。また、クラスメートと会話する内容も多く、全員知らないメンバーであったこともあり、最初は話しかけたり、会話したりすることに躊躇していたが、積極的に話しかけ、さらに新たなメンバーがクラスに入ってきたとき、すぐに話しかけることができた。これは授業以外でも役に立ち、買い物や旅行先でわからないことがあったとき、積極的に訪ねることができて、自分にとって大きな成長であると実感した。この経験を通して、どんな人でも、積極的に明るく接することが大切であると気がついた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

私は、今回の経験を通して、物事に対する積極性、明るく接することが大きな成長であったと実感したので、それを日本に帰ってきてでも取り入れて、様々な人とコミュニケーションをとりたいと感じた。海外という日本と異なる環境で生活したことは、何か起きたときに柔軟に対応できるという自信につながった。また、あらゆる人とのつながりから新たなことを学ぶ楽しさを実感できた。語学を学ぶことは、自らの語学スキルを実践、上達させることが目的であると同時に、コミュニケーション能力、異文化の尊重など、社会的なスキルの上達にもつながった良い機会となったので、今後これらを生かした学生生活となるよう、心に留めておきたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.E	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティユニバーシティ		
コース名	General English		
期 間	2025 年 6 月 14 日～ 2025 年 8 月 10 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

ダブリンシティユニバーシティでの授業では、まず留学前の4月ごろに90分ほどのレベル分けテストがオンラインで行われた。その後、大学に着いて教科書配布と同時にテストのスコアを基に Pre-Intermediate、Intermediate、Upper-Intermediate、Advanced の4つのクラスに分けられ、私は Intermediate に所属した。このクラスは4週間に一度程度の間隔で、レベル上げテストがあり、そのテストで十分なスコアを取ることができれば、上のクラスに行くことができる。このテストでは、Listening、Writing、Reading、Grammar、Vocabulary が出題され、テスト前までに学習した範囲がテスト内容であった。授業内容に関しては、初回の授業ではクラス内で自己紹介が行われ、2回目の授業から教科書の順番に沿って行われた。横浜国立大学の PE や APE の授業と似ており、曜日ごとに Grammar をやる日、Writing をやる日などが分けられていた。また、授業を受ける中で特に圧倒されたのは、他の国の学生が積極的に授業内で発言していたところである。「なぜこの答えは違うのか」や「これは英語でどう伝えることができるのか」など、Speaking の文法が間違っているにもかかわらず、積極的に発言する姿に自分自身も奮い立たされた。様々な国の人が集まるので、国によって英語のアクセントが異なり、最初は相手が何を話しているのかを理解することにとっても苦戦したが、クラスみんなで授業をつくっていくアクティブな授業形式であった。さらに、授業中はひたすら教科書通りに進むのではなく、Kahoot! やすごろく、文法クイズなどちょっとしたミニゲームがあり、楽しく英語を学ぶことに加えて、クラスメイトとコミュニケーションをとるきっかけにもなった。しかし、クラスによっては先生が変わるところがあり、もちろん先生によって授業の進め方や雰囲気は異なっているので、新鮮さがある一方で、授業方式に慣れることが難しかった。私は8週間滞在していたが、3回ほど先生が変わった。課題については、その日に学んだ内容の問題がプリント1～2枚ほどで、30分ほどで終わる内容であった。そして毎週金曜日にその週に学んだ内容の確認テストがあり、そのテストの方式も先生によって異なるが、Vocabulary や Grammar が中心に出題され、教科書の内容をきちんと理解しておけば解ける内容であった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

ダブリンシティユニバーシティでの授業を受ける中で特に得られた知識は Vocabulary である。これまで私は単語帳や教科書に載っている重要語句をひたすら覚えて Speaking でそれらを使っていましたが、授業中先生が「これはこのような言い方ができる」といった英語を母国語とする人が日常会話で使うような語彙を得ることができた。そしてそれらを授業中にすぐに使うことによって、頭の中で定着させることができ、Speaking 能力を向上させることにつながった。また、授業中英語を学ぶだけではなく、様々な異なる国出身の学生と授業を受けるので、文化の違いを知ることができた。私のクラスでは 2 週間ほど日本人、台湾人、韓国人、メキシコ人、フランス人がおり、例えば「友人とのパーティは時間通りに行くべきか」というお題に対して先生が「あなたの国ではどうか」というような質問をし、そのような中で国によって違う価値観や考え方を知った。また、「こんにちは」や「はい」など、身近に使う言葉を学生たちの母国語でどのように言うのかを授業の合間に先生が質問しており、英語だけではなく、もっと他の国の言語も学びたいという気持ちになった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、やはり「英語を話せるか」という不安や心配がとても大きく、授業中でも他の学生と比較して消極的に参加していた。しかし、クラスメイトが一生懸命発言していたこと、クラスの「間違えても大丈夫」という雰囲気、そして先生が間違った文法でも言いたいことを理解してくださるだけではなく、正しい言い方を教えてくださったことから、少しずつ積極的に発言をするようになった。また、授業内でどんどん発言していくことによって英語の 4 技能を向上させることができたと思う。この留学プログラムを受けた後では、授業内だけではなく、何事にも積極的にチャレンジする気持ちが自分自身の中に芽生えた。アイルランドに滞在する間、日本にいる時の何倍も行動をし、自分から進んで知見を広めるようなことをした。この新しく芽生えた気持ちと能力を大切に、今後の学生生活に活用していきたいと思う。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

この期間で 1 番身についた能力は間違いなく英語力である。8 週間というわずかな時間であったが、この得た能力を無駄にしないように大学での英語で行われる講義、就職活動に向けた TOICE や英語での卒業論文など、自分から進んで英語に触れる機会をこれからもつくりたい。また、大学での留学生のボランティア活動やコミュニケーションアワーなど、英語を話す時間も大切にしたい。8 週間のアイルランド留学をただ思い出として心にしまっておくのではなく、この時間で得たものからさらに発展させて、今後の大学での自分の学びにつなげていきたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	T.I	学部・学科	理学部・理学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティユニバーシティ		
コース名	General English		
期 間	2025 年 8 月 5 日～ 2025 年 9 月 12 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

平日は、午前 9 時から午後 13 時まで授業がありました。私のクラスでは、文法やリスニング、リーディング、ライティングなど教科書を用いて学びました。教科書では、映画やスポーツ、人体、教育など様々なテーマに関連する語彙や熟語、テーマに沿ったディスカッションを行いました。毎回ペアワークやグループワークがあったのが印象的でした。グループ内でディスカッションをする機会が多かったので自分の英語を使う機会が多く、自分の意見を英語で表現する練習を積むことができました。

学んだ文法の演習として、早押しクイズをペアで協力し合い競うゲームを毎授業行いました。みんなが正解するまで次のレベルに進めないというルールがあり、協力して問題を解くとともに文法への理解も深まりました。

とても印象に残っている授業は、紙に書いてある英単語を当てるゲームです。各チームの代表者が紙に書かれた英単語の定義を英語で説明し、他のメンバーがその英単語を当てるというルールです。英単語の意味や定義を英語で説明する難しさを実感しました。このように、学んだことをアウトプットすることが多かったので、スムーズに授業を受けることができました。

また、先生が発言しやすい雰囲気を作ってくれたおかげで、分からないことがあった時にその場で質問をすることができ、より理解が深まる授業となりました。

毎週金曜日には、その週で学習した内容の確認テストが行われました。テストが早く終わり時間に余裕があった時には、人狼ゲームやアイルランドの文化に関するゲームなどをしました。

課題は、学習した文法に関する演習問題や自分の意見を書く練習としてライティングの問題がありました。教科書やプリントによる課題がメインでした。課題の答え合わせは授業中に行うことが多く、生徒が納得するまで丁寧に解説をしてくれました。ライティングは、文法や英単語のスペルミスなど細かい部分まで添削してくれたおかげで、曖昧な文法を再確認することができました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

文法を英語で学ぶことで、ネイティブの方が英語をどのように理解して使っているのかを知ることができとても興味深かったです。英語で文法を学ぶ方が理解しやすいと感じた時もありました。また、テーマに関連した英単語や熟語、それらの意味や定義を英語で理解することでより一層単語力が身に付きました。

様々な国の生徒とディスカッションや会話をすることで、受け答えで使う英語も学ぶことができました。彼らの自ら積極的に自分の意見を発言する姿勢から学ぶことも多かったです。アイルランドに限らず他国の文化や日本の文化との違いを知ることもできました。ペアワークやグループワークを何度も行ったことにより、自然とスピーキング力が向上しました。

アクティブラーニングを通じて、新たな知識を覚えるだけではなく実際に自分で使う練習を繰り返すことでより知識が定着しやすくなったと実感しています。また、英語で学習することで、英語で考える力を養うことができました。

これらのことを、留学を通して学び得ることができとても貴重な経験となりました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

今までは、授業中に分からないことがあってもその場で質問することがなかなかできませんでした。また、ディスカッションなどで自分の意見を自ら発言する勇気もあまりありませんでした。留学時の授業では、分からないことや質問があったらその場で聞くことが多かったです。そして、ディスカッションの際も自分が思ったことや感じたことを積極的に自分の言葉で説明する練習を行うことができました。初めは、自分の意見があっても発言することに不安を感じていましたが、些細なことでも勇気を出して言葉にすることの大切さを学ぶことができた実感しています。質問を出し合い、クラスみんなで一緒に理解したり意見を共有したりすることで、しっかりと理解することに繋がると思いました。特にディスカッションでは、相手の話を理解しようとする姿勢も大事であると感じました。お互いに、話をしようとする姿勢と話を聞こうとする姿勢が備わって初めて、ディスカッションは成り立つのだと思いました。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して、確実にリスニング力やスピーキング力が上がったと実感しているので、引き続き勉強を続けていきたいです。また、英語で何かを説明する際には単語力が必要であると痛感したので、英単語も学習したいと思います。完璧に英語を使えるようになったわけではないので悔しい気持ちもあり、それが英語の勉強をするモチベーションとなっています。英語の勉強を進めていくうえで、一つの目標として TOEIC や IELTS などの英語の資格を勉強しさらに英語力を身に付けたいと考えています。